

繋がる給田・強い給田 ～さらなる連携を目指して～

世田谷区立給田小学校

学校運営委員会通信

平成23年度 第7号
平成24年3月21日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 井上健

議題

第9回 1月19日

1. 学校長より
 - 平成24年度学校経営方針の説明
2. 委員長より
 - 学校運営委員会の役割について
3. 副校長より
 - 漢字検定のボランティアについて

出席者

井上、若林、土屋、多田、
芝崎、田中、程原、渡辺、
鈴木、土橋、片山、鶴岡

前運営委員(通信編集担当)
清水さん

1月19日、校長室にて第9回
学校運営委員会が行われました

最初に、土橋校長より来年度の学
校経営方針のベースとなる「給田小
学校(開校50周年)の未来にむかっ
て」平成24年度の取り組み基本方針
「」について説明がありました。次
回委員会で委員の意見を集約し、平
成24年度の学校経営方針を作成して
いきます。

次に、井上委員長から学校運営委
員会の役割に関連して、次のような
話がありました。

「学校運営の基本方針を校長と一
緒に考えることが学校運営委員会の
1番の役割。土橋校長が言われる
『繋がる給田、強い給田』を単に学
校に関わる人々が顔見知りになっ
たり、協力し合ったりするためのキャ
チフレーズにとどめていてはいけな
い。学校があることで、世代や文化
が繋がり、また、繋がるのが私た

ちの力になっていく。そうしたこと
を考えれば、『繋がる給田、強い給
田』という言葉はまさに学校のミッ
ション(使命・任務)を表している
と捉えたい」。

最後に、片山副校長より2月4日
に行われる漢字検定について、「ボ
ランティア募集をしたが、必要人数
の半分にも満たない」という報告が
ありました。

委員からは「委員がバックアップ
に入る」「知人や地域の方に声かけ
をしていく」などの提案があり、ボ
ランティアの再募集をしながら、経
過を見守ることになりました。

校長からは「漢字検定の運営や会
計管理もできる体制が不可欠。来年
度以降の組織について、漢字検定も
含めて考えていく必要がある」との
提言があり、本年度の残り2回の委
員会で、「来年度の組織」を検討し
ていくことになりました。

議題

第10回 2月10日

1. 学校長より
視察報告
2. 来年度以降の組織について
提案及び意見交換
3. 委員長より
来年度の組織について
4. 学校運営委員会通信
7号検討

出席者

井上、若林、多田、程原、
田中、渡辺、鈴木、土橋、
片山、鶴岡、安部

霧が丘小中学校
相坂俊副校長
副島江里子准校長
駒沢小学校
萩野三智子校長

2月10日、校長室にて第10回
学校運営委員会が行われました

今回は、本校の視察に来ていた
横浜市立小中一貫校・霧が丘小中学
校の相坂俊副校長と副島江里子准校
長、世田谷区立駒沢小学校の萩野三
智子校長がオブザーバーとして同席
しました。

はじめに「来年度の組織」につい
て、若林委員から提案がありました。
「委員として4年間活動してきたが、
地域運営学校について知ってもらっ
ことが一番、大変であった。また、
PTAや各ボランティア・グループ
などがこれまで以上に連携すること
が必要であると感じている。そこで、
ビジョンの共有化や別々に活動して
いるグループの連携をめざして

『(仮称)連携オフィス』というボ
ランティア・グループを立ちあげた
い。学校運営委員のOB・OGたち
がこの「連携オフィス」のメンバー
となることで、ビジョンを大事にし
ながらも、それぞれの特性を活かし
た連携が期待できるのではないかと。
他の委員からは、「OB・OGし
かメンバーにならないのか」「PT

Aかその役割を果たせたいか」など
さまざまな質問や意見が出されまし
た。

井上委員長からは「今年度一年を
かけて、『普段の活動をCSの視点
で価値づけることの重要性』を教職
員や保護者に訴えてきた。だが、話
をしたその時は理解が得られても、
継続性という点で難しさがある。そ
うした意味では、『普段の活動をC
Sの視点で価値づけること』ができ
るような組織や活動」を、今の給
田小に一番必要なものと考えられる。

学校運営委員のOB・OGは、ビジョ
ンについても、実際の活動について
もよく知っているのだから、ぜ
ひ、力を貸してほしい。どのよう
なり方がよいかは、やりながら、少
しずつ、ふさわしいものに近づけて
いけばよいのではないかと話があ
りました。

その後も、活発に意見が交換され、
次回は「組織」のあり方を具体的に
詰めていくことになりました。
なお、今回予定していた「平成24
年度学校経営方針」の検討は、時間
の関係で、次回に繰り越されました。

今年度、学校運営委員1年目の渡辺委員が「学校運営委員会の役割」について、井上委員長にお話をうかがいました。

(渡辺) 何もわからないまま学校運営委員になりましたが、委員会の活動に参加して、地域の大人と大人、地域の大人と子どもの繋がりがや絆を改めて考える機会となりました。

(井上) それはよかったですね。「学校」と言えば、真っ先に頭に浮かぶのは、「教室」や「勉強」かもしれないけれど、学校が地域の中にあることをもっと大事にしていくことが必要ですね。

(渡辺) 最近、「開かれた学校づくり」という言葉をよく聞くのですが・・・
 (井上) 学校は、ある意味では、現実の社会から切り離された「特別な場所」です。そのことは、子どもたちが安心して学習し、成長するために必要なことなのですが、反面、「学校の常識は社会の非常識」と言われるような状況も起きかねません。近年、「開かれた学校づくり」が課題の一つに掲げられているのはそのためです。

(渡辺) 「学校が開かれる」ためには、具体的にはどのようなすればいいのでしょうか。

(井上) 市場原理を導入したり、政治が介入したりすれば、「学校が開かれる」というものではありません。学校を真に開くためには、出会い・対話・関係性・信頼・相互学習などが不可欠です。給田小の学校運営委員会のようにメンバーがそれぞれの経験や良識にもとづいて、みんなで学校のありかたを考えていくこそが、学校に「学

校以外の視点」を呼び込み、自然と「学校を開いていく」と考えています。
 (渡辺) 学校運営委員会での発言には勇気が必要です(笑)。間違ったことを言っただけじゃないと、つい黙ってしまったりして。

井上先生！ 今年度も ありがとうございました



(井上) 私は、学校運営委員会制度の一番の意義は、少し堅い言い方をすれば、学校の中に「多様な人びと」が出会い、対話をしながら物ごとを考えていく公共的な空間をつくることだと思っています。そうした場所ができて、校長が自分のやりたいこと・やるべきことを確かめ、時に勇気づけられていけば、学校は自ずと地域に根ざした活力のある場所となっていくのではないのでしょうか。ですから、どうぞ、委員会でも自由に思うことを発言してください。それがメンバーに「繋がりや絆を考える機会」を与え、大きな力を生むはずです。

(渡辺) 昨年は、未曾有の大震災が起こり、人と人との絆がどれだけ大きな力を生むのかを実感した年でした。来年度も、多くの人と出会い、対話し、学びたいと思います。ありがとうございました。

初めての祖父母会食会

3月7日、ランチルームにて、祖父母会食会が行われました。普段、なかなか学校に来ていただく機会のない祖父母のみなさんとつながりをもとめて、企画されたものです。

春の訪れを感じさせる暖かさの中、33名の方が参加されました。長野・山梨・柏・草加など、遠方から来てくださった方もいらっしゃいました。はじめに、校内の案内を兼ねて、各教室を見ていただきました。おじいちゃん、おばあちゃんを見つけて、嬉しそうに手を振る子どもたちもいました。

給田小の雰囲気を感じていただいた後は、いよいよ給食です。子どもたちと一緒に食べていただくことはできませんでしたが、参加者同士の孫自慢や昔話に花が咲き、楽しいひとときを過ごしていただけたようでした。



〇年ぶりの給食当番!? みなさん、手際が良く、あっという間に配膳が終了しました。



いつもお孫さんから「おいしい」と聞いている給食をゆっくり味わっていらっしゃいました。

数か月前に東京(給田小)に転校して行ったお孫さんがどんな学校に通っているのか見てみたかったと、山梨からいらっしやったおばあちゃんは、「今度孫に会ったら、今日のことを思いだしながら話ができます」とうれしそうに話されていました。みなさんのお話から、給田小にとっても関心を持ってくださっていることがうかがえました。

祖父母のみなさんとのつながりも大切にし、みんな子どもたちを見守りながら、育てて行きたいと思えます。

献立
 麦ごはん
 魚のみそ漬け焼き
 野菜の甘酢かけ
 みぞれ汁

給田幼稚園年少組園児との交流



「目線を揃えてあげてね」

実際に交流をする前の授業では、小さな子どもとの関わり方やお世話する側としての意識を高めていきました。今回初めての試みですが、リハーサルとして保護者が園児役になり読み聞かせの練習をおこないました。保護者の方なら、小さな子の相手をする時のアドバイスが的確で、手遊びなどの知識も豊富だと思っただけです。「ゆっくり読んでね」「目線を揃えてあげてね」

3学期に入り高学年へと一歩ずつ近づいている4年生の子どもたち。1月31日、土橋校長が園長をされている区立給田幼稚園で、年少組園児との心温まる交流を体験しました。これを皮切りに、5年生までさらに年長となった園児たちと関わりを深めます。そして、その子どもたちが入学してくると、6年生として新1年生のお世話します。4年生にとって自分たちより小さな子とのふれあいは新鮮な体験となり、人を喜ばせることの楽しさや思いやりの気持ちを芽生えさせてくれます。今回の幼小交流が具体的にどのような内容で行われたのか担任の先生がた（大本先生、小原先生、前田先生、斎澤先生）におつかがいしました。

「子どもたちの感想の中には、「将来幼稚園の先生になりたい」とか「学校に帰るのが寂しかった。体は寒かったけど心は温かかった」という感想もありました。お別れの時には、園児がフェンス越しに見えなくなるまで手を振ってくれて、お互い名残惜しいという感じでしたね。」

「相手が喜んでくれると自分も嬉しい」という気持ちを味わえたのだと思います。大人が思っ以上に子どもたちは心のふれあいができたんですね。

子どもたちは最初は照れくさそうでしたが、園児が意外にしっかり聞いてくれたので、「自分たちもかっこいいお兄さんお姉さんらしく」と張り切っていました。園児と関わっていく中で、自ら相手の気持ちを考えて、接し方を工夫する児童もいました。みんなとてもいい顔をしていましたよ。



短い時間でしたが、心がふれあえた子どもたちが喜んでくれたという感動をたくさん経験すること、やさしさによって確かなものになっていくのだと実感しました。(運営委員)

子ども同士の関係ができてくると小学校の様子が見えるし、お兄さん、お姉さんが身近な存在になります。園児の「また来てねー！」を実現していくことで心が繋がっていくんですね。

ある園児の保護者が「街を歩いていたり、小学生のお兄さんが子どもにあいさつしてくれたんです。誰だろって思っていたら『ほくの知っているお兄さんだよ』って。知らないうちに、私の知らないお兄さんとながりができていたんですね。」と話してくれました。実際に、小さい子に合わせた読み方や立ち位置などをよく考えて、園児の気持ちをとても大切にしてくれました。

給田幼稚園・副園長 小岩井先生の感想

以前給田幼稚園にいた子どもたちは、自分が小学校のお兄さん、お姉さんに優しくしてもらったことを覚えておるんですね。今度は自分たちが優しくお世話する番。どうやって仲良くできるかな？どうやって伝えよう？と真剣に考える。不思議なのですが、その気持ちがある友だちにも伝わっていくようです。

4年間ありがとうございました！

未就学児の保護者として学校運営委員会に参加させていただき、4年が経ちました。右も左もわからなかった私が、今では一番の古株です(笑)。

小学生の私にとって、給田小学校はとても楽しい場所でした。もちろん、楽しいのは学校だけではなく、登校時、あいさつの声がいっぱい、「声が小さい！」と怒る保育園のおばあちゃん先生。交番の前に立ち、みんなに「おはよう」と声をかけてくれるおまわりさん。遊びに行ったら帰道、「気をつけてね」と声をかけてくれる友だちのお母さん。伝統のもちつきを見せてくれたおじさん。

あの頃を振り返ると、いつも周りに地域の方の姿があり、「たくさんの大人に見守られて過ごしていたんだな」と、今更ながら気づきました。「今の子どもたちが大人になった時、こんな風に感じてくれたらいいな。」そんなことを思いながら、地域の大人として子どもたちと関わるようになりました。

任期は終えますが、これからも給田小学校や子どもたちと、地域の大人として関わっていききたいと思えます。最後になりましたが、ボランティアとしてお手伝いくださった保護者・地域のみなさま、「学校運営委員会通信」の取材や印刷など、快くお引き受けくださったみなさま、そして教職員のみなさま、ありがとうございました。

H19年度

学校運営委員

若林みどり



学校保健委員会



2月23日、給田小学校ランチルームにて「学校保健委員会」が行われました。この委員会は「子どもたちの心と体の健康づくり」のために、年に1回開催されています。今年度は全教職員が出席し、保護者も20名ほど参加しました。

「委員会」という名前ではありませんが、学校・家庭・地域の連携をめざして学校内にとどまらず、公開するかたちで開催されているのが特徴です。

まず、保健主任の大本先生と養護教諭の江藤先生が1学期の身体測定、健康診断の結果、保健室の利用状況をデータに即してわかりやすく解説してくださいました。次に、栄養士の南先生からは、給田小の「自慢の給食」がどうやって作られているのかについてのお話がありました。体育主任の沓澤先生は、スポーツテストの結果について「全学年で区・都・全国平均を全て上

回っている」と胸を張っていらっしゃいました。最後に、生活指導の安部先生が「心と体両面の健康が大事であることを、子どもたちを交えてわかりやすく説明



学校医・内科 田中佐喜子先生
学校医・眼科 上田萬利子先生
薬剤師 和久井潤一先生

されました。

続いて、学校医、薬剤師の先生がたから専門的な講話をいただきました。内科の田中佐喜子先生は「しっかり栄養と睡眠を取ることが小学生には大事である」、眼科の上田萬利子先生は「視力がおちるといことは、他の病気が潜んでいることもあるので、必ず親子で眼科に来てほしい」、薬剤師の和久井潤一先生は「学校の衛生環境を守るために、飲料水検査を毎月おこなっている」とのことでした。

このように、学校保健委員会では、給田小の伝統でもある「健康教育」がどのように進められているかについて興味深いお話がたくさんあり、また、質疑応答や意見交換も活発に行われています。

この委員会への参加は、どなたでも自由（「申し込みなし」）です。来年度は、ぜひ、もっと多くの保護者の皆さんにご参加いただきたいと願っています。

「種目がある」と胸を張っていらっしゃいました。最後に、生活指導の安部先生が「心と体両面の健康が大事であることを、子どもたちを交えてわかりやすく説明

今月のわんこ 渡辺ポチくん



犬種：ミニチュア ダックスフンド
性別：オス
年齢：7歳
4年前に椎間板ヘルニアにかかり、大手術をしました。1年かかりでリハビリをして、また元気に歩くことができるようになりました。

今年度も「わんわんパトロール」の活動にご協力いただきありがとうございます。愛犬家のみなさまのご参加をお待ちしています。



代表 土屋俊幸

古民家の風景

3月3日のひな祭りを前に古民家にひな人形が飾られました。このちよっと珍しいひな人形は「御殿飾り雛」と言われ、御殿は京都御所の紫宸殿（しんんでん）をなぞらえたものだそうです。

ひな人形を飾ってくださったのは、地域で昔遊びなどを教えてくださっている団体の方で、「ひな祭り会」も古民家で開いてくださいました。こうして子どもたちが四季折々の行事や文化に触れる場として古民家利用され嬉しく思います。



御殿飾りのひな人形

千歳民俗資料保存会会長 麻生則行

あしがき

今年度も、残すところわずかとなりました。地域運営学校としての5年目を振り返ってみたいと思います。振り返る時にこの「学校運営委員会通信」は欠かせません。今年度は合計10回発行されていますが、改めて読み返してみると、充実した紙面から、そのときどきの活動が生き生きと思い出されます。

今年度の目標は「CSYとしての3つのビジョンの共有化」でした。井上委員長には、お忙しい中、これまでの活動をCSの観点から見直し・価値をつけるために、PTA運営委員会 職員会議、教員とのフリートーキングの会、そして、単P研修会を4回にわたって講演をいただきました。特に、単P研修会において、教職員と保護者が「みんなの子どもをみんなで育てる」という視点で活発な意見交換をできたことはとても有意義であったと感じています。

11月の展覧会「給田小50周年前夜祭」というテーマで取り組みました。子どもたちの作品を見ただけでなく、保護者がたくさん子どもたちと触れ合う機会という視点も加えたことで、「3つのビジョン」が生かされていると思っています。

同様のことは、3年生の「地域安全マップ作り」や6年生の「地域ポフンティアに参加しよう」にも言え、子どもたちが地域と保護者と関わるよい機会となりました。その他、放送大学の取材があったり、滋賀県と横浜市中から学校視察があったりと、CSYとしての給田小の今後を考えることができました。

現在は、次年度に向けて、そうした活動をさらに効果的に運営できる組織づくりを考えています。ビジョンの実現に向け、さらにもみなさんがわかりやすい、参加しやすい、「繋がる給田」を目指していきます。

役員としてPTA活動に関わった保護者の方々がその次の年に新たな関わりを見つけて、学校に協力していただけることが多くなりました。先日の進学検定では、卒業生やその保護者がポフンティアとして参加してくれました。久しぶりの小学校の雰囲気や子どもたちとの出合いを皆さん喜んでくださいました。そんな卒業生や保護者の姿を見て自分も卒業したら給田小で試験監督をしようと思った子どもたちもいたのではないのでしょうか。そうした光景に給田小の未来を感じます。

50周年（平成24年度）を迎え、給田小がますます地域・保護者との繋がりを深めていくことでしょう。「繋がる給田、強い給田」を合言葉に、次年度もビジョンの共有化を目指していきたいと思っております。

校長 土橋 稔